

別記様式（第3条関係）

開催記録

名 称	第2回旧本郷第一小学校跡地利活用検討会
開催日時	平成30年10月31日（水）13時00分～16時00分まで
開催場所	旧本郷第一小学校跡地、会津美里町役場 本郷庁舎 301会議室
出席者	<p>【跡地利活用検討委員：12名出席】</p> <p>出席 松村 茂、弓田修司、齋藤勝美、梅宮孝裕、渡部一也、齋藤良七、佐藤信寛、西田健、佐藤金一郎、石橋史敏、竹内樹美、油谷文恵</p> <p>【事務局】</p> <p>総務課 鈴木総務課長 平山課長補佐 大竹財政係長 五十嵐主事 まちづくり政策課 小川まちづくり政策課長 小林課長補佐</p>
議 題	現地確認、第1回検討会開催内容確認、利活用案について 他
資料の名称	別添資料
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内 容	
<p>【現地確認】</p> <p>【議事】</p> <p>2) 第1回検討会開催内容</p> <p>（事務局）マスタープランを元に意見をまとめ具体的な意見を提出する・人口減少対策についての検討を行う・地域の活性化のためにどのように利活用していくか検討する・現地確認を行い意見を取りまとめ、委員の認識を一致させるとした内容を説明。</p> <p>（委員）マスタープランを初めて見たので、内容を簡単に説明願う。</p> <p>（事務局）策定に係る経緯などを含め土地利用の規制状況について説明。主要な地域設備の課題について、土地利用の誘導として旧本郷第一小学校跡地は利便性の高い土地であるため適切な利活用が求められている事、土地利用の方針について説明。</p> <p>3) 利活用案について</p> <p>（事務局）事前に提出された利活用意見について紹介。意見を提出した委員から説明していただく。</p> <p>（委員）</p> <p>・進め方について 過去2回行われた説明会について、各町民から寄せられた意見</p>	

について受け止めるべき

- ・メモリアルとして跡地を利用する意見が一番多かった。130年の歴史を踏まえ、これから130年残せる場所として整備する。
- ・地域づくりからの意見 住宅地として利用する意見は少なかった。公園として整備する意見が多い。まちづくり、地域づくりと合わせた意見は少なかった。
- ・跡地を利活用するというより、どのように地域を盛り上げていくか、そのために跡地をどう利活用するべきか、というような進め方にしたらどうか。
- ・外部の人間からの目線も取り入れるべき。
- ・常識論からではなくいろいろな意見を取り入れ、それを収束させていく
- ・本郷地区の強みと弱みを分析して地域づくりや跡地利用のヒントを得たい。
- ・歴史まちづくり法を活用し、若い人に価値を認めさせる。
- ・メタセコイヤをはじめとする、跡地に生えている樹木について調査。昭和50年頃に環境整備の観点で植樹したのではないか。
- ・今あるものを活用していく。

(委員)

- ・江戸時代から学びの場として利用してきた場所であるため、今後も学びの場として整備したい。昔の教室を再現するなど。
- ・炎の里としての整備（焼物、食品の販売）
- ・憩いのスペースとしての整備。
- ・人口減少対策は高田・新鶴で行い、本郷では学びのスペースとして整備したい。

(委員)

- ・南東の一角を子供の場所として整備し、遊具を設置して子供が安全に遊べるように整備する。植樹等で、季節の移り変わりを感じることが出来るようにする。（カエデなど）
- ・南西の一角を会津に降る雪を利用して、スキーやそりが出来る丘を作る。カシなどのどんぐりの木を植える。
- ・北西の一角、ひょうたん池や岩石園がある場所を蓮の池として整備。高田でも龍興寺で蓮を植えて名所になっている。ここにも蓮があることで新たな名所になるのでは。
- ・北側の体育館があった場所にはあやめとホテルとめだかの川を整備。桜と柳を植える。
- ・中央にヒマラヤスギの森を整備する。

(委員)

- ・人口減少抑制に資する施設であること。
- ・子育て支援の拡充を取り上げていることから、いずれ必要となるであろうと思われる認定こども園として整備。

・築 37 年の現在の幼稚園を建替えるとなった場合に、財政面などを踏まえても旧本郷第一小学校跡地に整備するのが良いのではないか。

(委員)

- ・真ん中に公園のある焼物の町。
- ・町全体の財産であり、共有の財産である。分割することなどはしたくない。
- ・焼物の里である本郷の特色を生かす。
- ・旧本郷第一小学校の半径 500 メートル以内には必要なものがそろっており、コンパクトコミュニティが形成されている。家を建てて暮らしていくには適している場所ではないか。街中に公園があることは魅力的。
- ・産業を振興させることが大事である。本郷焼を生かしていく。
- ・観光（せせらぎ公園、向羽黒山城）も近くにある。
- ・りんごが有名になりつつある。朝市を開いてはどうか。
- ・憩いの場、学びの場、産業の振興の拠点として活用してはどうか。

(委員)

- ・産業後継者定住住宅整備として整備人口減少の歯止めをどこでかけるかが重要な問題になっている。
- ・産業を振興するには後継者が必要だが、そういった人たちが暮らす場所が不足している。
- ・産業側としては、後継者として人に来てもらうのはとてもありがたい。ただ、その人たちが住む場所が無い。住宅が無いということが大きなネックになっている。
- ・そういった部分をフォローできるようなものがあればよいのではないか。焼物に限らず、農業などでも活用できるように。
- ・子育て世代に対してフォローできるような環境を整備することが大事。
- ・人が集まってこないことには、意味が無い。
- ・イベントだけを開いて人を集めるということではなく常に人がいる、子供たちの声が聞こえる。という形の方がよい。
- ・公園を作ったとして、その公園の利用価値ということを考えれば地域に住んでいる人が活用できるようにしなければならない。
- ・公園は公園で必要だと考えるが、それを利用するときそこに住んでいる人たちが自らの考えで公園を活用していくということが一番大事なのではないだろうか。
- ・町の中にもポケット公園などがあるが、果たして活用できているだろうか。
- ・産業の振興、人口減少対策を考えた際に必要になってくるのはやはり住宅ではないだろうか。

(委員長)

- ・前回の検討会で齋藤勝委員から、他の地域で地域活性化の事例があればとの要求があったため、説明。

・専門はテレワークという情報通信技術を利用し、時間や場所を問わず、働ける環境を整備すること

・全国でテレワークを推進しようという動きがあり、そういったことに携わっている。

・労働力、ICT（情報通信技術）・IOT（モノがインターネットに接続されること）はある。無いのはそれを生かす知恵であり、なにをすればよいかと声をあげる人が不足しているのではないか。

・南島原の山口小学校を例にすると、ここも廃校であり中で色々なことをやっている。そのように、いろいろな人が集まり、知恵を出し合って、活用しているところもある。

・何をやればよいのかを地元で考える。

・広い土地なのでひとつにまとめなくてもいろいろなことが出来るのではないか。

・はがすだけでなく加える

（委員長）委員それぞれの意見の説明が終了したため、それぞれの意見に対しディスカッションを行う。

（委員）様々な意見があつてすごくよかったと考える。その上でどう進むのか、ということだが細かく検討することではなく目標に向かって進んでいくべきと考える。

それから資金をいくらでもつぎ込むなんてことはできないし、公共施設として整備すれば財政面で負担が増えてしまうと考える。

また樹木に関しては倒れる可能性が高い。メタセコイヤについては北風で倒れてしまう危険性がある。桜も地盤が悪い場所に生えており、寿命も近づいているので枯れてしまう可能性が高い。

—————休憩—————

（委員）公共施設という意味ではハコモノ（住宅などの建物）か、公園がいいのかなと思うが、個人的な意見としてハコモノはいらないのではないかと考える。人口減少が進む中で必要性は薄いのではないか。整備するのであれば公園などの設備がよいのではないかと考える。町営住宅の跡地など、住宅として整備できる場所は他にもあるのではないか。私は本郷一小の卒業生というわけではなく、あの場所に強い思い入れがあるという訳ではないので校舎が残っていない今、学校らしさを利用した案はやめた方がよいのではないかと思う。新たな建物を建設することも公共施設とするのであれば税金の無駄遣いではないかと考える。私は本郷の裏路地が好きなので本郷裏路地ツアーというものを開催したことがあるが、そのときに裏路地を歩いたりしてもそこで本郷焼を感じる事があまり無かった。焼物を感じられるように、例えばじゃらんかけのार्टを設置したらどうかと考えたりもした。公園や憩いの場として整備するの

であればそんな風に本郷焼を感じるができるようにしてほしい。それから街中にポケットパークはあるが、遊具のある公園が全然無いので子供が思い切り遊べる公園を整備してほしい。

(委員) 第1回の検討会で、検討会で取りまとめられた案はひとつの町としての判断材料になるのであって、必ずしもその案が採用されるとは限らないという話があった。検討会の意見として採用されるか分からないひとつに意見を絞るのではなく、複数の意見をまとめてみてはいかがか。木の伐採に関しても、残す意見と残さない意見のどちらもあると思うので片方の意見を切り捨てることのないように、複数の意見を提案できればよいのではないか。検討会のことが新聞に載ったからか、こんなのいいんじゃない？あんなのいいんじゃない？といった声をかけてくれる町の人が結構いた。自分では思いつかなかった意見があったため、ただひとつに絞るのではなく、広く意見をまとめてみてはどうか。それから、若い人たちや検討会以外の方からも意見をもらうことで、意見を出した方にまちづくりに参加している実感が沸くのではないか。

(委員) 小学校で意見を聞くと、防災公園としての整備が良いのではないかという意見が多かった。だがやはり、街中に人が集まる場所があるということも大事かなと思う。遊具のある公園があるといいと思った。公園とした場合には子供たちのためだけではなく、若者や年配の方にも利用してもらえるようにしていきたい。それから先ほど焼物という意見があったが、個人的には焼物よりも農業ではないかなと思う。農業を盛り上げていきたいというのが私の意見。施設を作る場合には財政的な面からも考える必要があると思うし、まだ2回目なのでその辺はまだいいと考える。跡地を利用してマルシェなどを開催し、焼物や農産物に触れる機会を設けてはどうか。

(委員) 前回の検討会の様子が新聞に掲載されたことで、町民の関心はとても高くなっていると思う。私も何人かに声をかけられた。検討会でどのような意見があり、どのような意見を提出するのか。そういった話になることが多く、検討会への町民の関心は高いことが分かる。以前の説明会のときに意見を述べた人も、検討会でどのような議論がされているか、ということはものすごく注目している。そういう状況を認識すべきだと思う。だからただ意見を聞きます、ということではなく、意見の集約の方法にも関わると思うが、検討会の中でいろんな意見があった中でひとつの意見に絞るのか、どういう方向性に持っていくのかという上で、この第2回検討会の話し合いはとても大切だと思う。それからここに委員として集まった方がいろんな意見を交わすということが、実は町の活性化につながっていくのではないか。そう考えている。先ほど2人の女性委員からもあったが、意見を若い人たちから集めたり、跡地の利活用に関心を持った人たちの意見をまとめて、ワークショップなんかをやって、議論をするということが実は町の活性化につながっていくのではないか、という感じがするから今後の進め方についてどういう方向性に持っていくのか、再度確認したいと思う。

(事務局) 最終形として、検討会でやったものが全部ゼロになるとかそういったこと

はない。検討会での意見をまとめ、その上で答申をしていくことになるが上がってきた意見をそのままやる、ということになるかもしれないし、ひとつの参考とさせていただく場合もある。最終的には意見を受け止め、実施する・しないは町長の判断になるということ、を以前の検討会で申し上げた。いろんな意見が出てその中で実現可能ということ、さらに町長がいいね、ということになれば、当然議会での同意も必要になるため、まるつきり 100%あがった提案をできるかといわれればなかなか難しい部分もあるがいろいろディスカッションしたうえで、出し方は検討会にお任せするしかないと思っている。それから今後のスケジュールの中で、検討会を年度内に 5 回行う予定である。それに加え必要に応じ 1 回程度はワークショップ等を開催することも考えている。それである程度意見がまとめれば、それは町に対して検討会の意見ということで頂くが、継続的に検討する必要があるということであれば状況を見ながらまた検討したいと思う。今年度に限っては予算措置も 5 回までとなっているため、その中で十分ご意見を出していただきたいと思う。

(委員) 本郷焼を否定するつもりは無いが、焼物があるという意見が多く出ているが現状認識という意味で捉えてほしい。組合長も大変苦労されていると思うが、生産体制はピークの半分を切っているはず。工場も半分以下になっている。労働人口も減っている。理由は国内で過剰飽和になっているということが一つ。それからいわゆる 100 円ショップ等中国などから安い製品が入ってきて、物が全然売れなくなっている。そういった現状である。それをどうにかするという事は、本郷焼をどうこう言っているわけではないが、並大抵のことではないはず。そういったことも含めてこの会では話し合いをしていかないといけない。本郷だから本郷焼といった簡単な話ではない。それから観光について、私の知る限り観光地化を図ってそういう町になったという事例は聞いたことがない。個人や地域が整備をした結果、観光地となった事例はある。例えば資産家が市から施設を買って整備をした結果、それに伴って人が来るようになったり経済がまわったりした例はあるが、これは結果観光であって最初からここを観光地にしようとして観光地になった、というところは見たことも聞いたことも無い。そのぐらい観光地化することを目指して整備を進めていくのはとても難しい、ということ踏まえて話し合いをしていかないと本郷だからこうするとか、そういう次元の話ではないと思う。それから他の委員の意見にもあったが、産業の振興は必要だと思っている。それで今回私は認定こども園の話をしたが、町は「木育」という考えを取り入れて進めている。これは子供の情操教育の部分が一つある。会津美里町は、町の面積の 70%以上を森林が占めている。これを使わない手は無い。「まるごといいね、みさと」と町は言っているが、森林の部分については全くといっていいほど手付かずにいると思うから、最終的には林業の部分を応援するという事も「木育」の大きな狙いだと思う。だからこの産業の振興というのは非常に難しいと思うので、その辺はやはりしっかりやっていかないとそんな簡単なものではないと私は考えてい

る。

(委員) 先ほど発言があったように窯業は衰退している。しかし窯業であったり、碍子会社があったりすること、それに加えて農業が行われていて、いろんなものが生み出されているということは非常に大きなことだと思う。先に竹内委員からの意見もあったが、焼物組合の長として皆さんの家の周りにじゃらんかけを置かせてもらえませんか、といったお願いはしていきたいと思う。本郷の街中にはいろんな場所に焼物の欠片があるが、それは昔から焼物の欠片を路地の中にじゃらんかけとして埋めたわけではなくて、普通にあったもの。それがすごく印象的だったのでそれを残すということは大事なことだと思う。どこまでこの会議の中で話し合われたことが町長の気持ちを動かすことができるのか分からないが、ただやはりある程度まとまった一つのものを決めていかななくてはならないことはすごく感じている。また話は変わってしまうが真ん中に2本立っているメタセコイヤの木に関しては先ほど別の委員からも指摘があったが、もう風化していつてしまう、北風で倒れてしまう、という判断を下しているという状況だからもう倒すべきではないかと思う。倒壊した際に被害が出てからでは遅いので、倒した方が良いという意見がまとまったとして、それは一つの案ですよ？今までは校舎が風除けになっていたために、倒れる危険が少なかつただけだと思うが、どうなのか。危険性があるため現実的に判断すべきではないか。

(委員) 施工業者が倒れる危険性があることを知っていた上で残したということになれば、それ相応の補強というか、対応をしていかないといけないと思う。

(事務局) 工事は色々変更契約を行っていて、実際説明会で残してほしいという要望があったため、解体工事の段階で当初契約金額から減額をして、木を残すようにした。総じて産業廃棄物の処理もあったので総額は増えているが予算の範囲内で行い、議会の議決を経て変更契約を結んだ。その場では木は残すということで、残した樹木の処理については検討会での意見を反映させることとなっており、それに基づいて今後対応することで議会には説明をしている。現在は残している状態だが、伐採するようになった場合には予算措置することになる。検討会を開催しこれだけの時間を使って議論をしているため、この場での意見は我々も真摯に受け止めて、何か提案があった際にはどのくらいかかるのか、基本的なことを試算するなど、町長に意見が出たとおりに働きかけをしていく。町の執行部としても検討していくということが、議決を得て100%それが実行されるというわけではなく、あくまで財政規模もありどれくらいかかるものなのか、長期財政計画に沿って実施できるものは実施していく、というスタンスを取っていくつもりでいる。現時点では頂いた意見を全て実施することができるかどうかは何も申し上げられないので、皆さんの意見は重視しつつ、最終形は町長の判断になるということでご理解いただきたい。決して議論していただいたことをゼロに帰すなんてことはしない。

(委員長) 樹木の対応について検討会のなかで議論してほしいということは、樹木に

関しては伐採しないと危険であるという診断がされた結果、検討会の判断に委ねられたということか。

(事務局) 現時点での樹木に危険性があるかどうかを我々はまだ調査をしていない。これまで、まず残すべきだという意見が多かったため、伐採に関しては今回の解体工事の中からは省いたということ。現時点ではまだ木があるので、第1回目の検討会の中で木をなくすのが先か、そうではなくあの跡地をどのように使っていくか必要な機能を割り振ってから、その上で木が支障となる場合、伐採するなり、移設するなり、といった話が前回あったと思う。そのため議会には契約額の減額をしたが、伐採や利活用も含め、今後の話し合いに基づいて検討していきたいということで説明をしている。

(委員) 現段階で危険なのは間違いない。プロの立場から現場に行って状態を確認した結果、単純に見たままの事を申し上げている。私が見る限りでは木から細い枝が何本も出ている、枝の先端の方が茶色くなっていた。これはもう木が弱ってきているということなので、遅かれ早かれ枯れてしまうなり、倒れてしまうなりしてしまうと思う。

(委員) 今の話の中で、例えばメタセコイヤを伐採した際にそれを表札などに加工して家庭に配布する、ということを考えてがそういったことは可能か。

(委員) 材木としては、メタセコイヤは柔らかい素材のため建材としては使用できないが、加工品としてなら利用できると思う。

(委員) そういった形で利用できるといいと思う。

(委員) 参考になるか分からないが、高田の小学校で死んでしまった木を伐採した際にそれを利用して記念品を作成したことはある。

(委員) 私はかつて旧本郷第一小学校に勤めていたが、子供たちに本郷とはこういった町だったんだよということを伝えきれなかったのではないかなということを後悔している。具体的にいうと本郷焼に対する知識や、本郷町全体に関する事。そういうものを伝え切れなかったと思っている。町についての勉強というのは、大体3・4年生で行う。その時に私はクラブ活動で、探検隊などを作って本郷のいろんなところを探検した。それは自分にとっても勉強になったし、とてもいい町だと思った。私は今回のことにあたって申し上げるとすれば、本郷はこういった場所なんだよ、ということをお子に伝えることがとても大切だと思っている。そこで私が申し上げたいことは、ここは本郷焼を中心にして遊んだり学んだりすることができる場所として活用したい。それに加え、技術的なことを学べる場にしていきたいと考えている。今の子供たちに本郷というのはこういう町だったんだよ、ということをお伝えられる場所になればいいなと思っている。もう一点、最近昭和村長と話す機会があり、驚いたことがあった。昭和村にはからむし織りの技術を継承していくための織姫制度というものがあり、織姫という方がいらっしゃる。20年ほど前からこの制度があったが、昨年度までに約110名の方が修了しているそうである。そこでどのくらいの方が昭和村に残っているのか、

と思い聞いてみたところ、約 30 名の方が昭和村に残っているとのこと。また会津全体で 40 名ほどの方が残っているそう。そこでなぜその 30 名が残ったかという、お金ではなく、からむし織りの技術を通して地域の方から文化を学んでいきその過程で、自分の生き方として今後も織姫をやっていく、そういった決断をされた方がいる。だから、そういった意味ではやはり子供たちに地元の特色や文化を伝えていくのは、子供が成長していく過程や地域を盛り上げていく上で大事なことだと思う。

(松村委員長) まだ皆様お話されたいことはあるとは思いますが、時間となったのでまた次回ということにさせていただきます。

4) 利活用方針の方向性について

(事務局) 利活用方針の方向性ということで資料に掲載しているが、載せた理由としては皆様からの意見を頂く中で、色々議論をなされて、利活用を目指すところが見えてくるのではないかと思案として記載したが、また次回以降引き続き話し合っていたきたいということで次回以降にずらしたいと思う。

5) その他

(事務局) 次回は 11 月 16 日金曜日 14 時からを予定。その次の検討会についても 12 月の中旬、14 日頃を目途に調整中。決定次第また連絡する。

閉会